

小鹿野歌舞伎の小学校での実践とその教育的効果について

* 佐藤 節子

Ogano Kabuki Practice in Elementary School and its Educational Impact

SATO Setsuko

要 旨

本研究では、埼玉県秩父郡小鹿野町飯田の三田川小学校6年生11名が2019年12月に上演した小鹿野歌舞伎の取り組みについて調査し、その教育的効果について考察した。文献調査と現地での取材、小学校校長や歌舞伎指導者へのインタビュー、小学生へのアンケート調査を行った結果、小学生たちはいままで経験したことのない身体の使い方を身に付けたことや、努力を積み重ねて芝居を完成させた達成感、仲間と協力することで味わう一体感を強く感じたことが明らかになった。

Key words : 歌舞伎体験学習、小学校、教育的効果

1. はじめに

筆者は先行研究(佐藤, 2019)において民俗芸能の学校での実施状況やその教育的効果について文献をもとに調査した。その結果、体育の授業においては意欲的に取り組む態度や踊る楽しみが、運動会や発表会などの行事においては一体感や地域との連携の深化が、総合的な学習の時間においては郷土芸能への理解の深化や地元への誇りの確立が得られたことが明らかになった。また、歌舞伎体験学習を受講した中学生にアンケートを依頼した結果、生徒たちは伝統を継承することへの肯定感、一体感、達成感を強く感じており、地域への理解、郷土愛、新たな身体感性の会得を感じていることが判明した。

このような結果を踏まえ、本研究では小学校で歌舞伎体験学習を受講した小学生にアンケートを依頼し、中学校と同様の教育的効果が得られているのか検証する。

2. 目的

本研究では、小鹿野歌舞伎の小学校での取り組みについて調査し、その教育的効果について考察する。

3. 調査対象

調査対象となる小学校は埼玉県秩父郡小鹿野町飯田の三田川小学校で、全校児童49名、5学級、教職員総勢22名の小規模校である(小鹿野町立三田川小学校HP, 2020)。調査した小鹿野歌舞伎の演目は「青砥稿あおとぎょうし花紅彩画はなのにしきえ 白波五人男せいらい 稲瀬川勢揃せいろい 之場」で、出演は三田川小学校6年生11名である。上演日時は2019年12月8日(日)12:00～12:30で、小鹿野町飯田八幡神社例大祭での奉納歌舞伎演目の一つとして行われた。

* 保健体育講座

4. 方法

調査方法は、文献調査と現地での取材、小学校校長へのインタビュー、歌舞伎指導者への紙面でのインタビュー、小学生へのアンケート調査である。

5. 結果

5-1. 文献調査と現地での取材

5-1-1. 鉄砲まつりについて

鉄砲まつりの取材は2015年から2019年にかけて毎年行った。平行して文献調査を行なった。

埼玉県秩父郡小鹿野町飯田の八幡神社では、毎年12月の第2日曜日とその前日に「鉄砲まつり」が行われる。その行事内容は次の通りである。一日目(土)14:00若衆宮参り(図1)、14:30笠鉾・屋台曳き廻し(図2, 3)、16:00三番叟上演、19:00歌舞伎上演。二日目(日)10:00祭典・神楽上演(終日)(図4)、11:00三番叟上演、12:00～歌舞伎上演、14:30火縄銃演

武(図5)、15:30大名行列(図6)、16:00お立ち神事(銃火奉納)、17:00神輿渡御、笠鉾・屋台曳き廻し、17:30神幸祭(川瀬神事)、19:30歌舞伎上演、煙火奉納(歌舞伎上演後)。

鉄砲まつりの始まりは200年以上前の江戸時代火縄銃の頃にさかのぼるといわれ、当時、田畑を荒らす鹿や猪に困っていた人々がそれらの獣を追い払う豊穰祈願として始めたという説や獵師の試し打ちが起こりとの説がある。大名行列は、元文年間(1740頃)上飯田領主の旗本古田大膳ふるた だいぜんが行列を仕立てて参拝したのが起源とされている。大名行列に続いて、この祭りのクライマックスのお立ち神事(銃火奉納)が行われるが、参道の両脇からの銃火の中、二頭の御神馬が社殿への石段を一気に駆け上がる勇壮で迫力ある光景が見ものである(小鹿野町観光協会, 2019)。

町を練り歩く笠鉾・屋台には、化粧を施して衣装を身に着け扇を振りながら「わっしょい」と掛け声をかける子供たちや、笛太鼓鉦の演奏者ならびに氏子の子供たちが乗り込む。笠鉾・屋台の操作は大人たちが行



図1 神輿(筆者撮影2015)



図2 笠鉾曳き廻し(筆者撮影2015)



図3 屋台引き廻し(筆者撮影2015)



図4 神楽上演(筆者撮影2019)



図5 火縄銃演武 (筆者撮影2015)

う。町内の曳き廻しの後、屋台は神社下の上飯田集会所前広場に戻り、屋台の両側に舞台を付け足し、下手に花道を取り付けて歌舞伎舞台へと転換し、そこで歌舞伎上演が行われる。

飯田八幡神社例大祭での奉納歌舞伎は、小鹿野歌舞伎保存会上飯田部会が中心となって行われており、令和元(2019)年には次に示すスケジュールで上演された。12月7日(土)午後4時「三番叟」猪野裕明、午後7時 上飯田子供歌舞伎「ことぶき 寿曾我対面 たいめん 工藤 やかた 館之場」、午後8時 上飯田子供歌舞伎「白波五人男 稲生川勢揃之場」。12月8日(日)午前11時「三番叟」猪野裕明、午後0時 三田川小学校歌舞伎「白波五人男 稲生川勢揃之場」、午後1時 上飯田若連歌舞伎「菅原伝授手習鑑 てならいかみ 寺子屋之場」、午後7時30分 上飯田若連歌舞伎「菅原伝授手習鑑 てならいかみ 吉田社頭車引之場」。

飯田八幡神社の氏子たちによる歌舞伎は古い伝統を誇り、上飯田という約50軒の集落の若者が受け継いでいる。飯田八幡神社が平家方の武士によってこの地に勧請されたという言い伝えから、この祭りでは源氏が活躍する「義経千本桜」や「いちのたにみたば 一谷嫩軍記」などの歌舞伎を演じてはならないという決まりがある(山本, 2005)。

また、毎年行われる「三番叟」は祭りが無事開催されることを祈念する踊りで、「八井」という屋号を持つ猪野家の当主が世襲により演じ、古い伝統を受け継いでいる。八井は元造り酒屋で、神社前の国道沿いにある現在の家の裏に大きな酒蔵があり屋台はその中に格納してあった。お祭りになるとそこから曳き出し、



図6 大名行列 (筆者撮影2015)

八井の前で三番叟を舞った(阿部, 2017)¹。

5-1-2. 小鹿野歌舞伎について

小鹿野歌舞伎上演の取材は2015年から2019年にかけて毎年町内の各地を訪問して行なった。平行して文献調査を行なった。

江戸時代に江戸・京都・大坂といった大都市で発展した歌舞伎は、娯楽として日本じゅうの村々に広まっていった。それぞれの土地では、見るだけでなく素人が自分たちで演じて楽しむ地芝居(農村歌舞伎)が誕生した。小鹿野町は埼玉県の西部、秩父市の西に位置し、名峰二子山や両神山などを水源とする赤平川に沿って集落が点在する静かな山間の町であるが、江戸時代後半から、生糸生産の好況などを背景とした豊かな経済基盤が祭りや歌舞伎熱を支えた(山本2005)。

小鹿野歌舞伎は約二百数十年前の江戸時代中頃に始められた。町内には寛政4年(1793年)に歌舞伎を上演した記録も残る。文化・文政期(1804～30年)に活躍した初代坂東彦五郎は江戸の大歌舞伎役者坂東三津五郎の下で修業を積み、名をもらって帰郷し近所の若い衆に芝居を教えた。「後ろ面の彦五郎」といわれ、前後に面をつけて踊ると、身体の前後を錯覚させるほどの芸達者だったという伝説がある。

1 現在は上飯田集会所に屋台と笠鉾を収納している。

初代彦五郎の没後、弟子たちがそれぞれの村の名を付けた彦五郎を名乗り、後輩を指導するようになったが、その中から勇佐座の創始者「音羽屋彦五郎」と飯田の師匠「喜熨屋彦五郎」が出た。この後、音羽屋は興行芝居の系統、喜熨屋は村芝居の師匠の系統として、二つの流派に分かれる(平野井, 2005)。一座芝居を組織した音羽屋は、“勇佐座”“天王座”“大和座”と引き継がれ、秩父地域はもとより群馬県まで興行を行っていた。映画・テレビの影響を受け、昭和30年代以降は衰退の時期を迎えたが、旧大和座系の役者と町内各地で地芝居を続けてきた人たちが合同して小鹿野歌舞伎保存会を結成(1973年)し、1975年には埼玉県無形民俗文化財の指定を受けている。町内では、十六・小鹿野・津谷木・奈倉・上飯田・両神小森に伝承され、それぞれ地元の神社の祭に氏子を中心となって歌舞伎を演じている。町内には常設舞台が10箇所程度残り、掛け舞台や祭り屋台(山車)に芸座・花道を張り出す舞台もある。近年は子ども歌舞伎、高校生の歌舞伎、奈倉女歌舞伎などの活躍も見られる。衣装・かつら・下座・化粧・振り付けなどすべて町民でこなし、地芝居のデパートとも言われている(小鹿野町HP, 2020)。

5-1-3. 三田川小学校の歌舞伎上演について

三田川小学校での練習の取材は筆者の日程が合わず出来なかったが、三田川小学校のブログには次のような記録がある。「6年生歌舞伎体験。令和元年10月29日(火)6年生の歌舞伎体験も今日で4回目となりました。子供たちは台詞もかなり覚えたようで、今日は着物を着て、小道具も用意していただき、体育館での立ち稽古に臨みました。節回しなど、まだまだこれからの部分もありますが、がんばって練習しています。八幡神社例大祭での上演が楽しみです。」添付された写真からは、浴衣を着た児童たちの前で楽しそうな表情で指導する指導者の様子、傘の扱いを懸命に練習する様子、十手の扱い方の説明を児童たちが真剣に聞いている様子がうかがえる。「6年生の歌舞伎の練習が最終日を迎えました。12月3日(火)本日、6年生が長い間取り組んできた歌舞伎の練習が最終日を迎えました。指導者の強矢様に、動きや台詞の細かい部分の調整をしていただき、万全の準備が整いました。三田川小6年生による子供歌舞伎の上演は、12月8日

(日)の正午頃を予定しております。ぜひ、子供たちの練習の成果をご覧いただきたいと思います。これまで指導に当たっていただいた強矢様をはじめとする皆様には、長期間に及ぶ熱心なご指導をいただきました。誠にありがとうございました。」写真からは、指導者の気迫のこもった後ろ姿と、浴衣姿や小道具の持ち方が様になってきた児童たちが、本番を間近に控え神妙な面持ちでいる様子がうかがえる。「6年生が八幡神社の鉄砲祭りで子供歌舞伎を上演しました。12月8日(日)の午後0時から八幡神社例大祭(鉄砲祭り)において奉納歌舞伎プログラムの1つとして本校の6年生11名が『白波五人男 稲瀬側勢揃の場』を上演しました。当日は、快晴のもと、たくさんの観客を前にして、6年生が10月から約2ヶ月間に渡って総合的な学習の時間に毎週小鹿野歌舞伎保存会上飯田部会の皆様からご指導をいただいた子供歌舞伎を堂々と発表して、大きな拍手をいただくことができました。上演後には一人一人が舞台の上で感想発表をし、緊張の中にも、大きな達成感を得た子供たちはとても輝いて見えました。ご指導・ご協力をいただいた小鹿野歌舞伎保存会上飯田部会の皆様には長期間に渡り本当にありがとうございました。」(三田川小学校HP, 2020)

筆者は当日の準備と本番の様子を取材したが、化粧



図7 上演前の準備(筆者撮影2019)



図8 三田川小学校歌舞伎上演(筆者撮影2019)

や衣装の着付けおよびかつらの装着は小鹿野歌舞伎保存会上飯田部会の人々が行った(図7)。演奏も保存会の人々の協力により行われた(図8)。

5-2. 校長へのインタビュー

校長へのインタビューは、令和元年12月8日(日)14:00～15:00三田川小学校児童の歌舞伎上演後に三田川小学校校長室で行った。熊野勤校長は三田川小学校へ赴任して2019年で3年目であるが、当校の特色を出すために2018年から歌舞伎体験授業を始めた。特色を出すことに力を入れた理由として、小規模校の統廃合を促す方針がある中(文部科学省, 2015)、存続が危ぶまれるという危機感がある。過疎化が進む中、鉄砲祭りでの歌舞伎披露を体験して卒業することで、三田川小学校での思い出を残し、郷土愛を育みたいというねらいもあった。三田川小学校は小鹿野町西側に位置し、その学区は国道299号沿いに東西16kmと長く連なっている(小鹿野町立三田川小学校HP, 2020)。このように三田川小学校の学区は広いので、上飯田で伝承される歌舞伎を知らない子供たちもいる。したがって、歌舞伎を知らない初心者に主役を、良く知っている経験者に脇役という配役で行った。練習は10月に入ってから2か月間、総合的な学習の時間に8～10回行った。指導は小鹿野歌舞伎保存会上飯田部会の強矢徳夫氏、新井安行氏、新井公裕氏が行った。

歌舞伎上演を行うことについて子供たちは素直に受け入れたが、保護者からは抵抗があったとのことである。理由として、祭り当日の送り迎えが大変なことや、特に上飯田の子供たちは祭りで様々な役割を担っているので忙しくなることがある。なお、歌舞伎出演よりもスポーツ少年団の活動を優先した子供もいたとのことである。

さらに小規模校ならではのメリットとして三田川小学校の特色を3点挙げていた。1つ目に、一人一人の能力に応じてじっくりと指導できる。2つ目に高学年はリーダー役がまわって来るのでリーダーシップを養うことができる。3つ目に地域のサポート体制が厚い。地域のサポート体制には「学校応援団」というPTAとは別の組織があり、「学校応援コーディネーター」の活動、放課後子供教室「いきいき教室」での地域のボランティア指導者による体験活動(かざぐるま作成など)、登下校時の犯罪や危険防止の見守りを

行う「安全応援団」活動などがある。歌舞伎体験授業の実施に際しては、学校応援コーディネーターに相談し、歌舞伎保存会への取り次ぎの協力を得、実現したとのことである。

5-3. 指導者へのインタビュー

小鹿野歌舞伎保存会上飯田部会の指導者強矢徳夫氏へのインタビューは、電話と手紙により行った。

小学校で歌舞伎体験授業を実施することに関しては、三田川中学校での実施実績もあることから歌舞伎保存会としては違和感なく受け入れたとのことである。そして小学校との連携については学校の方が皆良い方ばかりで気を遣うことはなかったとのことである。

学校での指導で気を付けていることについては「あくまで学校の授業ですので、出来るだけすべての子供達に仕事というか遊んでいる時間を造らずに何かさせる事、そして親しい子供もいるのですが、みな平等にあつかう事、大きな声を出さない事、女子の体にふれない事(出来るだけ)、時間を守る事(最初の頃は余ったり足りなかったり)、歌舞伎の好きでない子もいる事をわきまえる事」との回答を得た。

子供歌舞伎との指導の違いについては「やはり経験の有無の差は大きいので、たとえば10段階あるとすると、経験者は4位から始められるのに対し、未経験者は1からですので、限られている時間ですので、おのずとゴール地点が変わって来てしまいます。2ができた次3、次は4と少しずつレベルアップを考えています。今年の子供たちの五人衆は私の内で地元の子供は90点、小学校は50点でした。この違いはやはり伝統かと思います。地元の子は自分達の稽古が終るとコタツで皆さわいでいますが、その時も我々のセリフ廻しなどが耳に入って来るので自然と身に付いてくるのかなと思ってます。一気に100点を取らせるのではなく(無理ですが笑)少しずつうまくなってくれればと思います指導をしている」との回答を得た。

5-4. 子供たちへのアンケート

小学生12人に実施したアンケートは、筆者の先行研究(佐藤2019)と同等のものとした。ただし、6項目目「小鹿野歌舞伎を学ぶ過程で新たな身体感性を会得できた」は、小学生がより理解できるように「小鹿野

歌舞伎の学びを通して、いままで経験したことのない身体の使い方を身に付けた。(例えば：歩きかた、立ちかた、力の入れ方、見えを切る時の首の振り方、セリフと動きのタイミングの取り方、など)と変更した。①～⑥の項目については「かなりそう思う4点、どちらかというと思う3点、どちらかというと思わない2点、全くそう思わない1点」で当てはまる数値を選んでもらった。平均値と標準偏差は以下のとおりである。

- ①努力を積み重ね、芝居を完成させて達成感を味わった3.9 (SD0.3)、
- ②仲間と協力することで一体感を味わった3.8 (SD 0.4)、
- ③地域の人々から教わることで地域の人々の生き方を学ぶことができた3.6 (SD 0.5)、
- ④地域の方との交流によって町を愛する気持ちが養われた3.3 (SD 0.5)、
- ⑤誇りを持って伝統や文化を継承する態度が養われた3.6 (SD 0.5)、
- ⑥小鹿野歌舞伎の学びを通して、いままで経験したことのない身体の使い方を身に付けた。3.9 (SD 0.3)。

2018年に実施した中学生のアンケート結果と比較すると(図9)、⑥は小学生の方が高得点であった。一方、④と⑤は中学生の方が高得点であった。①②③は同様の得点を示した。

⑦「今まで経験したことのない身体の使い方について具体的に説明してください。」の項目では、「動作や言葉遣いの難しさ、役の性格による歩き方立ち方声の出し方の違い、花道での動作とセリフ、体を低くして決めポーズをする、片膝ついて座る(4人)、両手で十手を持つ、傘を前につきだす、セリフを強く言うところ、待っているときの立つ姿勢、下駄を履いて歩く工夫、着物がかたくて上手く移動できない、首が歌舞伎っぽく出来るようになった」といった記述がみられ、動きについてが16、セリフについてが5種類となった。

⑧「そのほかに歌舞伎学習を通して感じたこと(例えば：仲間や地域の方々とかかわりの中で学んだこと、苦勞したこと、うれしかったこと、歌舞伎はあなたにとってどのようなものか)など自由に書いてください。」と依頼した項目では、「小鹿野町」については「町の文化が体験できてよかった。町の伝統を勉強できて

よかった。」、「苦勞」では「『つけ』を最後に打つところが苦勞した。げたをはいたりカツラをつけて頭が重かったりして歩きづらかった。きものおびをしめるときがけっこうくるしかった。すわり方がつかれました。」、「一体感」では「みんなでタイミングを合わせられた。5人で合わせるところも言えたのでうれしかった。クラスのみなど一つの歌舞伎ができた。みんなで協力して歌舞伎ができて良かった。」、「達成感」では「最初は大変だったけど本番は成功してよかった。歌舞伎は言葉がむずかしいけど、セリフも言えてどうどうとできてうれしかったです。」、「むずかしさ」では「セリフがむずかしい。マイクは思ったよりも音が大きかったです。」、「良い経験」では「歌舞伎は楽しくてむずかしいけれど、いい経験になりました。つかれたけど、とても良い経験になった。」、「練習」では「いっしょうけんめいやって本番成功してよかった。最初はできないと思っていたけれど家でもたくさん練習して自分にじしんが持てるようになった。決めゼリフ・決めポーズなどを上手にするまでいっぱい時間がかかったが、上手くできてよかったです。」、「地域」では「分からないところをやさしく教えてもらったりしてとてもたのしかった。いろいろくわしく教えてもらったのでわかりやすかったです。」、「歌舞伎」に関しては「私は歌舞伎を9さいのころからやっていたのでよくわからなかったけど、だんだんやっていくうちにできるようになったのでうれしかったです。これからはがんばっていきたいです。」といった記述がみられた。

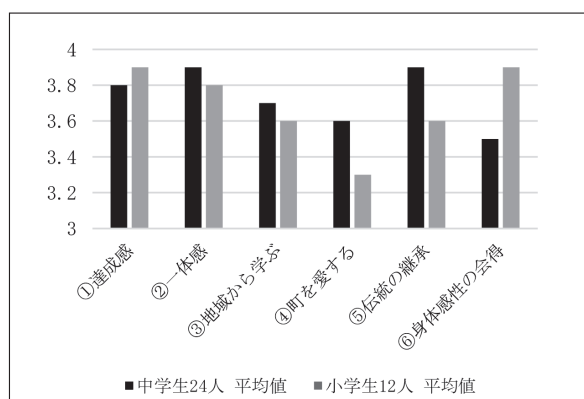


図9 歌舞伎体験授業実施後のアンケート集計 (小中比較)

6. 考察

文献調査と現地取材により、鉄砲まつりは、若衆宮参り、神社境内にある神楽殿での神楽上演、神輿を川辺に運び火を焚いて祈りを捧げる神幸祭など、神社が主体となる行事が核となっており、そこに屋台・笠鉦曳き廻し、歌舞伎上演、火縄銃演武、大名行列、お立ち神事（銃火奉納）が追加され、結果として盛りだくさんの内容で祭りが繰り広げられる事となったと考えられる。

上飯田部会の小鹿野歌舞伎では、上演演目に決まりがあったり、三番叟を八井の前で演じる際の屋台の位置が決まっていたりする。これらの決まり事に背くと不吉なことが起こったとの言い伝えがあり²、忠実にやっている様子からは、継承への使命が感じられた。実際の演技においても子供歌舞伎、若連歌舞伎ともに技能的に優れており、「喜熨屋彦五郎」由来の伝統を伝承することへの誇りが感じられた。

三田川小学校の校長が歌舞伎体験授業を始めた動機は、小規模校の統廃合が進む中、存続が危ぶまれる危機感から学校の特色を出すねらいがあった。三田川小学校が地域に残った唯一の学校となってしまったという経緯もあり³、地域の人々の当校への思い入れは強く、校長の自負も大きい。過疎化が進む中、鉄砲祭りでの歌舞伎披露を体験して卒業することで、三田川小学校での思い出を残し、郷土愛を育みたいというねらいもあった。これは小鹿野中学校が歌舞伎体験授業を始めた経緯とは異なる。小鹿野中学校の場合は統廃合以前の長若と三田川の両中学校で行われていた歌舞伎体験授業を継承するという事情があった。どちらも町内の過疎化に伴う試みという点では共通する。

指導者へのインタビューからは、様々な配慮をしながら学校での授業の一環としての指導を行った様子がかがえる。児童たちのアンケートからもやさしく分かり易く熱心な指導を受けた様子が明らかとなった。

小学生のアンケート結果を2018年に実施した中学生（佐藤，2019）と比較すると、小学生は「小鹿野歌舞伎の学びを通して、いままで経験したことのない身

体の使い方を身に付けた」が高得点であったことより、小学生の方が新たな身体遣いへの気づきの感性が高いと推察される。ただし、中学生への設問「小鹿野歌舞伎を学ぶ過程で新たな身体感性を会得できた」を、小学生向けに文面を変えたことで得点が高まったとも推察される。この点についてはさらなる検討が必要だろう。中学生の方が高得点だった項目は「地域の方との交流によって町を愛する気持ちが養われた」「誇りを持って伝統や文化を継承する態度が養われた」であることより、郷土愛や伝統継承への肯定感は年齢を経て視野が広がることで高まることが推察される。

新たな身体遣いへの気づきの具体的な自由記述において、小学生は動きとセリフについての言及だったのに対し、中学生は動き、化粧、楽器、セリフ、感謝の5項目に大別された。

その他の自由記述において、小学生は小鹿野町、苦勞、一体感、達成感、むずかしさ、良い経験、練習、地域、歌舞伎の9項目に分類されるのに対し、中学校では楽器、歌舞伎、総合的評価、化粧、動き、仲間、指導、練習過程、地域、達成感、披露、声、焦りの13項目に大別された。子供たちの成長に伴い、歌舞伎体験授業における気付きが深まっている様子がわかる。

学校体育の中で扱う民踊について、独特の身体技法の会得を通して新たな身体感性を学ぶことを樋口（2003）は期待し、中村（2001）は地域の伝統芸能・踊りの教材化の意義として次の3点を挙げている。①郷土の芸能・踊りの価値を認識させ、誇りを持たせる。②芸能・踊りに内在する郷土の表現性や精神性を学ばせる。③地域社会との連携を深める。こうした教育的効果は、佐藤（2019）の調査した中学校での小鹿野歌舞伎体験学習において示されたが、本研究においても体現された。

三田川小学校児童の演技は、地元の子供歌舞伎と比較すると決して上手とは言えない。同様のことは小鹿野中学校の発表にも言えることである。しかしながら、アンケート結果からは子供たちの気づきや成長がみられ、学校で歌舞伎体験授業を実施することの教育的意義は高いことが判明した。

2 三番叟についてのインタビューは2016年に猪野家当主の猪野知氏に行った。

3 三田川小学校は明治7年の三山学校の開校に始まり、学校の統合を経て現在の三田川小学校となった。三田川地域では、平成26年度末の幼稚園の閉園に続いて、平成27年度末の3月には中学校が閉校し、当校が三田川地区唯一の学校となった（小鹿野町立三田川小学校 HP, 2020）。

今後の課題として、今回できなかった三田川小学校での歌舞伎練習の様子取材を機会があれば行いたい。

文献

- 安倍希美2017「小鹿野歌舞伎における三番叟について(1) —その歴史的背景をさぐる—」『人間生活文化研究 Int J Hum Cult Stud.』27. 221-234.
- 安倍希美2019「小鹿野歌舞伎における三番叟について(2) —その歴史的背景をさぐる(2) —」『人間生活文化研究 Int J Hum Cult Stud.』29. 65-72.
- 樋口聡2013「武道とダンスを学校教育で教えることにより広がる可能性とは何か」『スポーツ社会学研究』21-1, 53-67.
- 平野井ちえ子2005「小鹿野歌舞伎の現在」『人間環境論集』法政大学人間環境学会23-36.
- 文部科学省2015「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引 ～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～」平成27年1月19日中央教育審議会初等中等教育分科会(2020年9月閲覧) https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2015/01/19/1354538_6.pdf
- 中村恭子2001「地域の伝統芸能・踊りを教材化する意義」『女子体育』10. 28-29.
- 小鹿野町立三田川小学校ホームページ(2020年9月閲覧) <http://www.ogano.ed.jp/sansyo/>
- 小鹿野町立三田川小学校ブログ写真(2020年9月閲覧) http://mitagawasho.blogspot.com/2019/12/blog-post_11.html
http://mitagawasho.blogspot.com/2019/12/blog-post_3.html
<http://mitagawasho.blogspot.com/2019/10/6.html>
- 小鹿野町ホームページ(2020年9月閲覧) <https://www.town.ogano.lg.jp/kabuki/kabukiamashi/>
- 小鹿野町観光協会2019「鉄砲まつり」パンフレット
- 小鹿野町観光協会ホームページ(2020年9月閲覧) <http://www.kanko-ogano.jp/>
- 小鹿野歌舞伎ホームページ(2020年9月閲覧) <https://ogano.kabuki.com/interest/kabuki-history/>
- 佐藤節子2019「小鹿野歌舞伎の中学校での実践とその教育的効果について」『宮城教育大学紀要』54. 293-302.
- 佐藤節子2016「小鹿野歌舞伎隆盛の仕組み—長若地区の伝承事例—」『埼玉女子短期大学研究紀要』33. 27-39.
- 山本正実 2005「小鹿野歌舞伎」『音楽文化の創造 CMC』38. 58-61.

(令和2年9月30日受理)

資料1 アンケートデータ

アンケート 番号	1全くそう思わない～4かなりそう思う						会得した身体感覚	その他
	①達成感	②一体感	③地域から学ぶ	④町を愛する	⑤伝統の継承	⑥身体性の会得		
1	4	4	4	3	4	4	歌舞伎は動作がむずかしかったり、言葉づかいがむずかしかった。	小鹿野町のいい文化が体験できてよかった。
2	4	4	4	3	4	4	それぞれの役によって性格が違うので歩き方も立ち方も言い方も違う。おとなしい…小さく歩く。声が高い。足をそんなにひらかない。元気…太またで歩く。声が低い。足を少しひらく。	歌舞伎で小鹿野町の伝統を勉強できてよかったです。私は「つけ」だったので、最後のうつところ苦勞しました。練習をいっしょにやってみようという気持ちです。
3	4	4	3	3	4	3	花道でやる時に、一回止まってから後ろを向きます。そして長いセリフを言うところに行きます。	タイミングをみんなに合わせてくれたし、五人で合わせるところも言えただけ良かったです。
4	4	4	4	4	4	4	きめポーズのときの体を低くして、きめた時	クラスの皆と一つの歌舞伎をできたし、あと、地域の人たちにも、わからないところをやさしく教えてもらったりしてとても楽しかったです。
5	4	4	4	4	4	4	片方のひざをつけてすわる。刀を両手で持つ	五人の方がセリフがむずかしいのに、とりてでもむずかしくて最初はできないうちで家でもたくさん練習して自分じしんが持てるようになった。歌舞伎は楽しくてむずかしいけれど、いい経験になりました。
6	3	3	3	3	3	4	かさを前につきだす所が始めてだった。	最初は大変だったけど本番は成功してよかった。つかれたけど、とてもいい経験になった。
7	4	4	3	3	3	4	かた足をたてて長い時間すわるのがたいへんだった。	きものおびをしめるときがけっこくするしかった。マイクは思ったより音が大きかった。
8	4	4	3	3	3	4	セリフを強く言ったりするところや、まわっているときのたつしやがむずかしかった。	みんな協力して歌舞伎ができて良かったし、いろいろくわしく教えてもらったのでわかりやすかったです。
9	4	4	4	3	3	4	げたをはいて歩くとき、足に力を入れるところびそうになったので、力をあまり入れないで歩くようにする。	苦勞したことは、げたをはいて歩くことや、カツラをつけて歩くとき、頭が重かったりして歩きづらかったです。
10	4	4	4	4	4	4	着物がかたく上手にいろいろできないことを知った。首が歌舞伎っぽく出来るようになって良かった。などです。	決めセリフ、決めポーズなどを上手にするまでいっぱい時間がかかったが、上手にできてよかったです。
11	4	3	3	3	3	4	すわっているとき、いつもはすわらないすわり方。	歌舞伎は言葉がむずかしいけど、セリフも言えてどうとできてうれしかったです。すわり方がつきました。
12	4	4	4	4	4	4	ひざをつけてすわる所がたいへんだった。	私は歌舞伎を9さいのころからやっていてさいよのほうは、いろいろなことではじめてだったのでよわからなかったけど、だんだんやってみていくうちにできるよくなったのでうれしかったです。これからはがんばっていきみたいです。

